

秘

海軍公報 第四八二四號

昭和十九年十月一日(日) 海軍大臣官房

○令 達

内令第九七五號ノ二

第二百三十五號驅潛特務艇

右本籍ヲ高雄警備府卜定ム
昭和十九年九月十八日

海軍大臣

内令第九七五號ノ三

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年九月十八日

海軍大臣

馬公方面特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百十六號(高)」ノ次ニ「第二百三十五號(高)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第一一〇五號

第二百二十八號驅潛特務艇

右本籍ヲ高雄警備府卜定ム
昭和十九年九月二十一日

海軍大臣

内令第一一〇六號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年九月二十一日

海軍大臣

馬公方面特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百二十四號(高)」ノ次ニ「第二百二十八號(高)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

官房教機密第四二〇號

昭和十八年官房教機密第二七三號中左ノ通改正ス

昭和十九年九月二十八日

海軍大臣

學生練習生區別	飛行	學生	練習機教程	六月	課程期間	記事
	飛行	學生	實用機教程	五月		
豫備學生(飛行)	偵察	偵察	練習機教程	六月	課程期間	記事
	偵察	偵察	實用機教程	四月		
豫備生徒	偵察	偵察	術科教程	八月	課程期間	記事
	偵察	偵察	術科教程	八月		

秘海軍公報 第四八一四號 昭和十九年十月一日

一三一九

飛行術練習生

偵察	八月
修	

(参照) 前記官房教機密二七三號ハ學生練習生ノ教程期間ニ關スル件ナリ

○ 雜 款

○將旗掲揚
第二十聯合航空隊司令官ハ十月一日將旗ヲ藤澤海軍航空隊ニ掲揚セリ

○司令艇變更
第二十一驅潛隊司令ハ九月二十日司令艇ヲ第三十八號驅潛艇ニ變更セリ

○廳舎移轉
高雄海軍軍需部基隆出張所ハ九月十九日左ニ移轉セリ
基隆市日新町一丁目一番地
(電話番號 二四八九)

○事務開始
第百十三號輸送艦機裝員事務所ヲ九月十七日大阪市港區南福崎町大反港内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

輸送艦機裝員事務所ヲ九月十八日横須賀海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第十二號輸送艦機裝員事務所ヲ九月二十一日吳海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去
第三百三十三號警隊事務所ハ九月二十六日之ヲ撤去セリ

○旅行順路

一 所在地 靜岡縣志太郡靜濱村
二 順路 東海道線藤枝驛下車―乗換―藤相鐵道大洲驛下車
徒歩約十五分(當基地ヘノ旅行者ニシテ燒津驛ニテ下車セラル向多數ニ付特ニ注意アリ度)
(關東海軍航空隊)

○本日海軍公報發行セズ

<p>飛行術練習生</p> <table border="1"> <tr> <td>偵察</td> <td>八月</td> </tr> <tr> <td>修術</td> <td></td> </tr> </table>	偵察	八月	修術		<p>(参照) 前記官房教機密二七三號ハ學生練習生ノ教程期間ニ關スル件ナリ</p>	<p>○ 雜 款</p>	<p>○將旗掲揚 第二十聯合航空隊司令官ハ十月一日將旗ヲ藤澤海軍航空隊ニ掲揚セリ</p>	<p>○司令艇變更 第二十一驅潜隊司令ハ九月二十日司令艇ヲ第三十八號驅潜艇ニ變更セリ</p>	<p>○廳舎移轉 高雄海軍軍需部基隆出張所ハ九月十九日左ニ移轉セリ 基隆市日新町一丁目一番地 (電話番號 一四八九)</p>	<p>○事務開始 第百十三號輸送艦艦裝員事務所ヲ九月十七日大阪市港區南福崎町八反告吾新街ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p>
偵察	八月									
修術										
<p>第十二號輸送艦艦裝員事務所ヲ九月二十一日吳海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p>	<p>○事務所撤去 第三百三十三設營隊事務所ハ九月二十六日之ヲ撤去セリ</p>	<p>○旅行順路 一 所在地 靜岡縣志太郡靜濱村 二 順路 東海道線藤枝驛下車―乗換―藤相鐵道大洲驛下車 徒歩約十五分(當基地ヘノ旅行者ニシテ燒津驛ニテ下車セラル向多數ニ付特ニ注意アリ度) (關東海軍航空隊)</p>	<p>○本日海軍公報發行セズ</p>							

秘

海軍公報 第四八一五號

昭和十九年十月二日(月)
海軍大臣官房

○令 達

官房軍第一一五八號
當分ノ間廣島縣安藝郡江田島村字大原、山口縣岩國市、舞鶴軍港及針尾海兵團ニ於ケル海軍兵學校ノ施設ハ之ヲ々々海軍兵學校大原分校、海軍兵學校岩國分校、海軍兵學校舞鶴分校及海軍兵學校針尾分校ト稱スルコトヲ得

海軍兵學校長ハ其ノ監督(副校長ノ監督ニ屬スルモノハ副校長ノ監督)ノ下ニ各分校ニ於ケル教頭ヲシテ同分校ノ教育ノ實施ヲ監理セシメ又所轄長ニ準ジ同分校ニ配セラレタル職員及生徒ノ身上ヲ取扱ハシムルコトヲ得

昭和十九年十月一日

海 軍 大 臣

(參照) 昭和十八年官房教機密第二八九號海軍兵學校分校ノ呼稱ニ關スル件ハ自然消滅内令提要卷一三〇ノ六六頁

官房軍第一一五九號

當分ノ間海軍兵學校舞鶴分校ニ於テハ従前ノ海軍機關學校ノ教育綱領ニ準ジ機關、工作及整備專修生徒ノ教育ヲ行フベシ

海軍機關學校ヲ廢止セラレタル際同校ニ在學中ノ生徒及海軍機關學校生徒トシテ採用豫定ノ者ハ夫々之ヲ海軍兵學校ニ於ケル

機關、工作及整備專修ノ生徒及生徒豫定者トス

昭和十九年十月一日

海 軍 大 臣

○牒 通

官房教機密第四二五號

昭和十九年十月一日

海 軍 省 副 官

關係各廳長殿

書類發送先ニ關スル件通牒

海軍兵學校舞鶴分校ハ當分ノ間機關、工作及整備專修ノ海軍兵學校生徒ヲ教育スルコトニ定メラレ候ニ付從來海軍機關學校宛送付セラレタル書類等ハ海軍兵學校ヘ送付スルノ外別途同校舞鶴分校宛送付セラレル様取計相成度

○雜 款

○酸素ガス容器ニ關スル件照會

左記番號ノ首題容器本年四月北方方面部隊ヨリ當部ニ還納陸揚中ノ處之方送付先不明ノ爲未ダ發送スルノ遲ビニ至ラズ當部ニ留置キ候モ之方處置ニ關シテハ頗ル難澁致シ居ル次第ニ付

秘海軍公報 第四八一五號 昭和十九年十月二日

一三三二

該容器所有ノ向ハ速ニ通知ヲ得度

追テ通知ナキ場合ハ當部所有ノコトトシ使用致シ度所存ニ付
爲念申添フ

記

DCW 33033
〃 33294
〃 33410
〃 33841
計四本

(大湊海軍軍需部)

○閉廳
台北地方海軍人事部ハ九月一日台北市表町ニ閉廳セリ

○閉校

一 海軍兵學校大原分校(部内限呼稱)ハ十月一日廣島縣安藝郡江田島村大原ニ閉校セリ

二 海軍兵學校ニ對スル書類ハ全テ大原分校宛寫一通送付相成度

三 海軍兵學校教官、監事、附ニ發令セラレタル者ノ本校及分校勤務別ハ本校ニ於テ決定スベキニ付江田島本校ニ着任ノコト

(海軍兵學校)

○廳舎移轉

松江地方海軍人事部ハ九月二十三日松江市殿町一九〇番地ニ移轉セリ

○基地移駐

當隊九月二十一日附靜岡縣志太郡燒津航空基地ニ移駐セリ

(關東海軍航空隊)

○事務所變更

第三百九設營隊ハ九月十八日事務所ヲ橫濱市中區橫濱在勤武官府内ニ變更セリ

○正誤

九月二十二日秘海軍公報第四八〇七號令達欄中「官房經第一五五六號」ハ「官房經第九二〇號」ノ、第十一條ノ二中「イ」ハ「二」ノ、「ロ」ハ「二」ノ、「ハ」ハ「三」ノ、「イ」ニ該當スル者」ハ「前號ニ該當スル者」ノ、九月二十五日秘海軍公報第四八〇八號令達欄海軍戰時特例給與規則第一條ノ四中「文官ハ辭令ノ日ノ翌日」ハ「文官ニ在リテハ俸給、増俸及在勤加俸ハ辭令ノ日ノ翌日」ノ、附則第三項中「昭和十九年九月一日後」ハ「昭和十九年九月一日以後」ノ、第四表ノ四備考第三號中「但シ既ニ」ハ「但シ既ニ前號ノ規定ニ依リ」ノ、同第四號中「特務士官又ハ豫備士官」ハ「特務士官」ノ、「豫備士官若ハ准士官」ハ「豫備士官」ノ、九月二十七日附秘海軍公報令達欄官房經第九一七號末尾海軍機密會計法規類集「二三三頁」ハ「一二五頁」ノ孰モ誤

秘

海軍公報

第四八一六號

昭和十九年十月三日(火)

海軍大臣官房

命令

達第三三一號

昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ驅潛特務艇五隻ニ左ノ通命名ス

昭和十九年九月三十日

海軍大臣

株式會社山西造船鐵工所ニ於テ建造

第二百四十六號驅潛特務艇

市川造船所ニ於テ建造

第二百四十七號驅潛特務艇

株式會社四國船渠工業所ニ於テ建造

第二百四十八號驅潛特務艇

有限會社福島造船鐵工所ニ於テ建造

第二百四十九號驅潛特務艇

林兼重工業株式會社ニ於テ建造

第二百五十號驅潛特務艇

達第三三一號

軍艦安宅外十七隻艦種變更ニ付左ノ通命名ス

昭和十九年十月一日

秘海軍公報 第四八一六號 昭和十九年十月三日

砲艦安宅	砲艦鳥羽	砲艦嵯峨	砲艦宇治	砲艦勢多	砲艦堅田	砲艦比良	砲艦保津	砲艦熱海	砲艦二見	砲艦伏見	砲艦隅田	砲艦多多良	砲艦須磨	砲艦唐津	砲艦舞子	砲艦鳴海	砲艦興津
(舊軍艦安宅)	(舊軍艦鳥羽)	(舊軍艦嵯峨)	(舊軍艦宇治)	(舊軍艦勢多)	(舊軍艦堅田)	(舊軍艦比良)	(舊軍艦保津)	(舊軍艦熱海)	(舊軍艦二見)	(舊軍艦伏見)	(舊軍艦隅田)	(舊軍艦多多良)	(舊軍艦須磨)	(舊軍艦唐津)	(舊軍艦舞子)	(舊軍艦鳴海)	(舊軍艦興津)

海軍大臣

<p>内令第一二一七號 右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル 横須賀鎮守府在籍 第三十九號海防艦 第五十六號海防艦 右警備海防艦ト定メラル 昭和十九年九月二十七日 海軍大臣</p>	<p>内令第一二一八號 特設船舶警戒部處務規程中左ノ通改正ス 昭和十九年九月二十八日 海軍大臣</p> <p>第六條表中</p> <table border="1"> <tr> <td>高雄</td> <td>船舶警戒部高雄支部</td> <td>ヲ</td> </tr> <tr> <td>高南</td> <td>船舶警戒部高南支部</td> <td>ニ改ム</td> </tr> <tr> <td>スラバヤ</td> <td>船舶警戒部スラバヤ支部</td> <td></td> </tr> </table> <p>(内令提要卷一、三八ノ七二ノ四頁参照)</p>	高雄	船舶警戒部高雄支部	ヲ	高南	船舶警戒部高南支部	ニ改ム	スラバヤ	船舶警戒部スラバヤ支部	
高雄	船舶警戒部高雄支部	ヲ								
高南	船舶警戒部高南支部	ニ改ム								
スラバヤ	船舶警戒部スラバヤ支部									
<p>内令第一二二〇號 特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス 昭和十九年九月三十日 海軍大臣</p> <p>特務艇、驅潜特務艇第一號型ノ項中「第二百四十五號」ノ下ニ「第二百四十六號、第二百四十七號、第二百四十八號、第二百四十九號、第二百五十號」ヲ加フ (内令提要卷三、四三頁参照)</p>	<p>内令第一二二一號 驅逐隊編制中左ノ通改定セラル 昭和十九年九月三十日 海軍大臣</p> <p>第四十三驅逐隊ノ項中「桃」ノ下ニ「棋」ヲ加フ (内令提要卷一、六八頁参照)</p> <p>内令第一二二二號 潛水隊編制中左ノ通改定セラル 昭和十九年九月三十日 海軍大臣</p> <p>第十五潛水隊ノ項中「伊號第四十五、」ノ下ニ「伊號第四十六、」ヲ加フ (内令提要卷一、七〇頁参照)</p>									

<p>内令第一一二三號</p>	<p>驅逐艦 樺</p>	<p>内令第一二二四號</p>	<p>第二百五號驅潛特務艇</p>
<p>右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル</p>	<p>驅逐艦 椿</p>	<p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム 昭和十九年九月三十日</p>	<p>海軍大臣</p>
<p>右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル</p>	<p>驅逐艦 樫</p>	<p>内令第一二二五號</p>	<p>海軍大臣</p>
<p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル</p>	<p>呂號第五十五潛水艦</p>	<p>昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス 昭和十九年九月三十日</p>	<p>海軍大臣</p>
<p>右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル</p>	<p>第三百三十四號海防艦</p>	<p>佐世保防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百一號(佐)」ノ次ニ 「第二百五號(佐)」ヲ加フ (内令提要卷三、四八ノ二九頁參照)</p>	<p>海軍大臣</p>
<p>右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル</p>	<p>第三百三十四號海防艦</p>	<p>内令第一二二六號</p>	<p>第二百四十六號驅潛特務艇</p>
<p>右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル</p>	<p>第三百三十四號海防艦</p>	<p>右本籍ヲ大阪警備府ト假定ス</p>	<p>自第二百四十七號驅潛特務艇 至第二百五十號驅潛特務艇</p>
<p>吳鎮守府在籍</p>	<p>第三百三十四號海防艦</p>	<p>右本籍ヲ鎮海警備府ト假定ス</p>	<p>海軍大臣</p>
<p>右警備海防艦ト定メラル</p>	<p>第三百三十四號海防艦</p>	<p>昭和十九年九月三十日</p>	<p>海軍大臣</p>
<p>第三百三十四號海防艦</p>	<p>第三百三十四號海防艦</p>	<p>内令第一二二七號</p>	<p>海軍航空廠ヲ置ク地及同廠ニ置ク各部又ハ工員養成所ノ件中左</p>
<p>右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル</p>	<p>第三百三十四號海防艦</p>	<p>昭和十九年九月三十日</p>	<p>海軍大臣</p>
<p>昭和十九年九月三十日</p>	<p>海軍大臣</p>	<p>秘海軍公報 第四八一六號 昭和十九年十月三日</p>	<p>一三二五</p>

ノ通改正セラル

昭和十九年十月一日

海軍大臣

「大湊要港」ヲ「北海道千歳郡 第四十一海軍航空廠」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ二二頁参照)

内令第一二二八號

昭和十六年内令第一二二三號海軍航空廠支廠ヲ置ク地及其ノ呼稱ノ件中左ノ通改正ス

昭和十九年十月一日

海軍大臣

北海道千歳郡 第四十一海軍航空廠千歳支廠

ヲ

大湊要港 第四十一海軍航空廠大湊支廠

ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ二二頁参照)

内令第一二二九號

昭和十六年内令第一二二三號海軍航空廠ノ分工場ヲ置ク地、呼稱及分掌事項ノ件中左ノ通改正ス

昭和十九年十月一日

海軍大臣

「第四十一海軍航空廠千歳支廠美幌分工場」ヲ「第四十一海軍

航空廠美幌分工場」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ二四頁参照)

官房人機密第一八〇五號

本年十月一日現在左記上欄各部ノ職員タル者ハ特ニ發令セララルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ、

昭和十九年十月一日

海軍大臣

記

海軍機關學校	海軍兵學校(舞鶴分校)
關西海軍航空隊小富士分遣隊	小富士海軍航空隊
軍艦タル砲艦	砲艦

○通牒

經機密第三號ノ六六

昭和十九年十月一日

海軍省經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

日本銀行代理店設置ノ件通知

國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ左記ニ設置シ夫々之ガ事務ヲ取扱フコトト相成候

記

中華民國 河南省「許昌」、「洛陽」
同 湖南省「長沙」
同 安徽省「蕪湖」
スマトラ島 「ラハト」

航本機密第一二一九號

昭和十九年十月二日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

「ハミルトン」式「プロペラ」翼々筒嵌入孔

設計變更品ニ關スル件照會

今般首題「プロペラ」翼々筒嵌入孔ハ工數節減ノ爲新製品ヨリ
計畫變更セラレ候處本翼體ハ舊品ヨリ約三六六瓦重量増加シ居
リ重量的ニ舊品ト互換性無之候條了知相成度

追テ新舊品ノ區分明示方法トシテ新品ニ對シテハ翼根部A端
面最初ノ刻印個所ヨリ左方一五耗ノ位置ニW刻印ヲ打刻スル
コトニ定メラレ候

○雜 款

○試驗問題發送

第三期海軍下士官候補者銓衡試驗(本年十一月二日施行豫定)
問題ハ十月一日附各艦隊、鎮守府、警備府、練習聯合航空總隊
及海上護衛總司令部宛發送ヲ了セリ

秘海軍公報 第四八一六號 昭和十九年十月三日

(海軍省教育局)

○運輸部出張所設置

當部出張所ヲ左ノ通設置シ八月二十五日ヨリ事務ヲ開始セリ

横須賀海軍運輸部館山出張所

千葉縣館山市 館山海軍航空隊内

電話番號(館空交換 九九番(所長)
九五番)

(横須賀海軍運輸部)

○事務開始

第六十七號海防艦艇裝員事務所ヲ九月十六日舞鶴海軍工廠内ニ
設置シ事務ヲ開始セリ

第六十四號、第六十六號海防艦艇裝員事務所ヲ九月十七日長崎
市飽ノ浦町長崎海軍監督官事務所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第一百十三號輸送艦艇裝員事務所ヲ九月十七日大阪市港區南福崎
町大阪造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第一百六十一號輸送艦艇裝員事務所ヲ九月十九日尾道市外日立造
船株式會社向島造船所ニ設置シ事務ヲ開始セリ

桑原部隊(横須賀海軍施設部教導班)ハ九月二十日横濱市
戸塚區中田町ニ移轉シ事務ヲ開始セリ

順路 省線戸塚驛下車陸路(乗合自動車長後行バス分校前下
車)約三・二軒

(横須賀海軍施設部教導營班)

第六十三號海防艦艇裝員事務所ヲ九月二十三日三菱重工業株式會社神戸造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去

第一百五十九號輸送艦艇裝員事務所ハ九月十六日之ヲ撤去セリ

第五十一號海防艦艇裝員事務所ハ九月二十一日之ヲ撤去セリ

第十號輸送艦艇裝員事務所ハ九月二十五日之ヲ撤去セリ

明治航空基地(假稱)設立準備事務所ハ九月二十七日之ヲ撤去セリ

○事務所一時撤去
第四十八號海防艦艇裝員事務所ハ九月二十日ヨリ一時之ヲ撤去シ事務ヲ中止セリ

○殘務整理

第五二四海軍航空隊ハ七月十日解隊殘務整理ハ靜岡縣志太郡靜濱村燭津航空基地ニ於テ之ヲ行フ

第二百二十一防空隊解隊ニ伴フ殘務整理ハ第五十三警備隊松輪派遣隊ニ於テ之ヲ行フ

○電話開通

青森縣下北郡大湊郵便局 第二〇二番

(大湊海軍人事部)

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所	記事
十月六日 〇九三〇	故海軍技師宮崎重雄外諸勇士	松江地方海軍人事部長	松江市公會堂	佛式
十月七日 一〇三〇	故海軍少將森野章六郎外諸勇士	横須賀海軍人事部長	横須賀海兵團	同
十月十一日 二〇〇〇	故海軍少將前島壽英外諸勇士	大阪地方海軍人事部長	大阪驛前海軍會館	同

秘

海軍公報 第四八一七號

昭和十九年十月四日(水)
海軍大臣官房

○令 達

達第三三三號。

艦營需品定額表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月三日

海軍大臣

主計長主管

區別	類別番號	供給區分	品名	數稱	摘要	記事
削除消耗品	二三〇		略	歴	枚	

内令第一一九號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年九月二十九日

海軍大臣

第一監視艇隊ノ項中「第三八千代丸」ノ下ニ、「海王丸、みゆき丸」ヲ加フ

第二監視艇隊ノ項中「第三寶松丸」ノ下ニ、「精良丸、海和丸」ヲ加フ

第三監視艇隊ノ項中「制海丸」ノ下ニ、「進攻丸、第三大和丸、第二十七長榮丸、第二號旭丸、新南丸」ヲ加フ

第四監視艇隊ノ項中「第二十七長榮丸、海王丸、海和丸、精良丸」ヲ加フ

丸、進攻丸、みゆき丸、第三大和丸、第二號旭丸、新南丸、」ヲ削ル

(内令提要卷一、一五二頁参照)

内令第一一三〇號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月一日

海軍大臣

軍艦ノ部中砲艦ノ項ヲ削リ潜水艦ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

砲艦		潜水艦	
安宅、島羽、饒峨、宇治	勢多型	勢多、堅田、比良、保津	熱海型
	伏見型	伏見、鴨田	伏見型
	多良、須磨、唐津、舞子、鳴海、興津		

同表備考中第三號ヲ左ノ如ク改メ第四號ヲ第三號トス

四、砲艦、海防艦、輸送艦ヲ稱呼スルニハ「砲艦何」「海防艦何」「第何號海防艦」「第何號輸送艦」ヲ以テス

第五號中「掃海艇」ノ上ニ「水雷艇」ヲ「第何號掃海艇」ノ上ニ「水雷艇何」ヲ加フ

(内令提要卷三、三三三頁参照)

秘海軍公報 第四八一七號 昭和十九年十月四日

一三二九

1417

内令第一一三二號
昭和九年内令第四百十六號別冊艦艇、特務艦艇機關使用限度標
準表中別表ノ通改正ス
別表ハ海軍省軍務局長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム
昭和十九年十月一日

海軍大臣

内令第一一三三號(軍極秘公報(乙配付)ニ掲載)

内令第一一三四號

横須賀鎮守府在籍

軍艦 伏見
軍艦 隅田
軍艦 宇治
佐世保鎮守府在籍
軍艦 安宅
軍艦 羽衣
軍艦 峨嵋
軍艦 勢多
軍艦 堅田
軍艦 比良
軍艦 保津
軍艦 熱海
軍艦 二見

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

昭和十九年十月一日

海軍大臣

内令第一一三五號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

砲艦 伏見
砲艦 隅田
砲艦 宇治
砲艦 安宅
砲艦 羽衣
砲艦 峨嵋
砲艦 勢多
砲艦 堅田
砲艦 比良
砲艦 保津
砲艦 熱海
砲艦 二見

<p>右本籍ヲ佐世保領守府ト定メラル 昭和十九年十月一日</p> <p>砲艦 砲艦 砲艦 砲艦 砲艦 砲艦 艦 艦 艦 艦 艦 艦 多須磨 多須磨 唐津 舞子 鳴海 興津</p> <p>海軍大臣</p>	<p>内令第一一三六號 佐世保領守府豫備掃海艇 第四十一號掃海艇 右警備掃海艇ト定メラル 昭和十九年十月一日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>内令第一一三七號 掃海隊編制中左ノ通改定セラル 昭和十九年十月一日</p> <p>海軍大臣</p> <p>第二十一掃海隊ノ項中「第三十九號」ノ下ニ「第四十一號」ヲ加フ (内令提要卷三、七三頁参照)</p>						
<p>内令第一一三八號 驅潛隊編制中左ノ通改定セラル 昭和十九年十月一日</p> <p>海軍大臣</p> <p>第十一驅潛隊ノ項中「第九號」ノ下ニ「第三十四號、第三十五號」ヲ加フ (内令提要卷一、七四頁参照)</p>	<p>内令第一一三九號 特設驅潛隊編制中左ノ通定メラル 昭和十九年十月一日</p> <p>海軍大臣</p> <table border="1" data-bbox="657 1153 790 1765"> <tr> <td>特設驅潛隊編制</td> <td>隊名</td> <td>特設驅潛艇名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第八日東丸、第九日東丸、高津丸、第二高津丸、第九</td> <td></td> </tr> </table>	特設驅潛隊編制	隊名	特設驅潛艇名		第八日東丸、第九日東丸、高津丸、第二高津丸、第九		<p>内令第一一四〇號 特設掃海隊編制中左ノ通改定セラル 昭和十九年十月一日</p> <p>海軍大臣</p> <p>第三十二掃海隊ノ項ヲ削ル (内令提要卷一、一五〇頁参照)</p>
特設驅潛隊編制	隊名	特設驅潛艇名						
	第八日東丸、第九日東丸、高津丸、第二高津丸、第九							

秘海軍公報 第四八一七號 昭和十九年十月四日

一三三

<p>官房艦機密第六〇七四號 大東亞戰爭中海軍軍需部長消耗兵器（火藥、火工兵器、化學兵器及海軍艦政本部長ラジテ特ニ通牒セシムルモノヲ除ク）ノ定數外供給請求ヲ受ケタルトキハ當分ノ間軍需部整理消耗兵器ニ準シ處理スルコトヲ得</p> <p>昭和十九年十月二日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>官房艦機密第三七〇號 大東亞戰爭中艦營需用品經理規程第二十六條ノ規定ニ依ル消耗品拂出簿ハ之ガ設備ヲ省略スルコトヲ得</p> <p>昭和十九年十月四日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>○通牒</p> <p>經豫機密第三號ノ六九 昭和十九年十月三日</p> <p>海軍省經理局長</p> <p>關係各支出官、資金前渡官吏殿 軍用手票ノ取扱ニ關スル件通知 軍人軍屬ニ對スル軍用手票ト日本通貨トノ引換事務ヲ左記ニ於テ取扱フコトト相成候 追テ南發券、儲備券ト日本通貨トノ引換ヲモ取扱フニ付爲念</p> <p>記</p>
<p>日本銀行那覇代理店</p> <p>○雜 款</p> <p>○事務開始 第一航空戰隊司令部ハ十月一日開隊松山航空基地ニ於テ事務ヲ開始セリ</p>	<p>○殘務整理 第三航空戰隊司令部殘務整理ハ第一航空戰隊司令部ニ於テ之ヲ行フ 第八五一海軍航空隊ハ九月二十日附解隊殘務整理ハ當分ノ間第一〇二航空基地隊内ニ於テ之ヲ行フ</p>	<p>○本日軍極秘海軍公報第一九號（乙配付）發行セリ 配付先 各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、航空技術廠、同支廠</p>



海軍公報 第四八一八號

昭和十九年十月五日(木)
海軍大臣官房

〇令 達

達第三三五號

自動車操縦術技術檢定合格證交付規則左ノ通定ム

昭和十九年十月三日

海軍大臣

自動車操縦術技術檢定合格證交付規則

第一條 本則ハ海軍軍人及軍屬ノ自動車操縦術技術檢定合格證(以下單ニ合格證ト稱ス)交付ニ關スルコトヲ規定ス

第二條 本則ニ於テ普通自動車、特殊自動車又ハ小型自動車ト稱スルハ内務省令自動車取締令第二條ニ掲グルモノヲ謂フ

第三條 合格證ハ普通自動車操縦術技術檢定合格證及特殊自動車操縦術技術檢定合格證ノ二種トス

普通自動車操縦術技術檢定ハ普通自動車(小型自動車ヲ含ム)ノ操縦ニ任ズベキ者ニ、又特殊自動車操縦術技術檢定ハ特殊

自動車ノ操縦ニ任ズベキ者ニ對シ之ヲ交付ス

前項ノ合格證ハ別紙様式第一ニ依ルモノトシ其ノ交付區分左ノ如シ

區分	交付區分
普通自動車	普通自動車ノ技術檢定ニ合格シタル者

海軍公報 第四八一八號 昭和十九年十月五日

特	殊	自	動	車
第一種	牽引自動車	第一種	ハノマ	第七種
第二種	ロードローラーノ類	第二種	ノ類	第六種
第三種	蒸氣自動車	第三種	ノ類	第五種
第四種	電氣自動車	第四種	ノ類	第四種
第五種	蒸氣機關ヲ原動機トシ前各種ニ屬セザルモノ	第五種	ノ類	第三種
第六種	電氣機關ヲ原動機トシ前各種ニ屬セザルモノ	第六種	ノ類	第二種
第七種	其ノ他ノ特殊自動車	第七種	ノ類	第一種

第四條 合格證ノ交付ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ニ該當スルモノタルコトヲ要ス

一 海軍軍人又ハ滿十五歳以上ノ軍屬ニシテ身體強健、品行方正、思想確實ナル者

二 身長一五〇釐以上(成ルベク一五五釐以上)、聴力 $\frac{150}{200}$ 以上ニシテ矯正視力〇・八以上、識色力異常ナキ者

三 自動車運轉員トシテ適當ナル性能ヲ有スル者

第五條 所轄長部下諸員中前條ノ資格ヲ有シ自動車操縦ニ適ス

ト認ムル者アルトキハ別紙様式第二ニ依リ自動車操縦術技術檢定受檢者名簿ヲ調製シ所在地ノ鎮守府司令長官(警備府、艦隊ニ於テハ夫々警備府司令長官、艦隊司令長官以下同ジ)ニ提出スベシ

第六條 鎮守府司令長官ハ檢定實施ノ爲部下職員ニ適宜檢定委員長及委員ヲ命ズルモノトス

第七條 檢定委員長ハ海軍工機學校長ノ定ムル自動車操縦技術檢定實施標準ニ基キ檢定實施ニ必要ナル細目ヲ定メ鎮守府司令長官ノ承認ヲ得テ之ヲ實施スベシ

海軍工機學校長ハ毎教育年度初頭前項ノ標準ヲ定メ各委員長ニ送付スルモノトス

第八條 檢定實施時期ハ鎮守府司令長官之ヲ定ム

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ委員長至當ト認ムル場合ニ限り檢定ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 普通檢定合格證ヲ有シ特殊檢定ヲ受ケントスル者
二 特殊檢定合格證ヲ有シ普通又ハ異種ノ特殊檢定ヲ受ケントスル者

第十條 委員長檢定ヲ實施セル場合ニハ合格者ヲ決定シ其ノ成績ニ意見ヲ附シ鎮守府司令長官ニ提出スルト共ニ下士官及兵ニ在リテハ在籍鎮守府ノ海軍人事部長及當該所轄長ニ通知スベシ尙檢定實施ニ關スル意見ヲ海軍工機學校長ニ送付スルモノトス

第十一條 委員長ハ合格者ニ對シ第三條第二項ノ規定ニ依ル合

格證ヲ交付スベシ

第十二條 海軍工機學校内火術(自動車)練習生及沼津海軍工作學校工術(施設機械)練習生ニ對シテハ前諸條ノ規定ニ準據シ夫々海軍工機學校長及沼津海軍工作學校長ヲシテ檢定ヲ實施セシメタル上合格證ヲ交付セシムルヲ例トス

第十三條 所轄長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ本則ニ依リ交付セラレタル合格證ヲ返納セシムルモノトス

一 疾病又ハ傷痕ニ因リ將來自動車ヲ操縦セシムルニ不適ト爲リタル者

二 故意若ハ重大ナル過失ニ因リ自動車ニ依リ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ毀損シタル者

三 引續キ二年以上自動車操縦ニ従事セシ事實ナキ者

四 其ノ他自動車操縦ニ不適ト認ムル者

第十四條 本則ニ依ル合格證ヲ紛失又ハ毀損シタルトキハ速ニ所轄長ニ届出ツベシ
所轄長前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ事實調査ノ上再交付ノ必要ヲ認メタルトキハ別紙様式第三ニ依リ前回合格證交付ノ委員長ニ之ヲ請求スルモノトス

(別紙添)

達第三三六號

自動車操縦術技術證明書交付規則中左ノ通改正ス

昭和十九年十月三日

海軍大臣

(達第三三五號様式第一)

<p style="text-align: center;">注 意 事 項</p> <p>一、法規ヲ嚴守シ事故防止ニ對シ細心ノ注意ヲ拂フ ベシ</p> <p>二、廻轉ノ際ハ必ず本合格證ヲ携帶スベシ</p> <p>三、本合格證ハ之ヲ他人ニ讓渡又ハ貸與スベカラズ</p> <p>四、紛失又ハ毀損シタルトキハ速ニ所轄長ニ届出再 交付ヲ受クベシ</p>	<p style="text-align: center;">自動車 操縱術 技備檢定合格證</p>
---	--

(昭和十九年十月五日秘海軍公報)

<p style="text-align: center;">檢定種別</p> <p style="text-align: center;">普通 (第 種)</p> <p style="text-align: center;">特殊 (第 種)</p>	<p style="text-align: center;">○領第 號</p> <p style="text-align: center;">年 月 日交付</p> <p style="text-align: center;">○ ○ ○ 領守府 委員 長印</p> <p style="text-align: center;">入籍番號</p> <p style="text-align: center;">官(職) 氏 名</p> <p style="text-align: center;">年 月 日 生</p>
---	---

1424

(達第三三五號様式第三)

昭和 年 月 日

委員長 殿

所 轄 長 官

(昭和十九年十月五日秘海軍公報)

自動車操縦術技術檢定合格證再交付ノ件請求

種 別	合 格 證	前 回 交 付 日	年 月	及 番 號	理 由	請 求 ノ 山	配 置	入 籍 番 號 (備入年月日)	官 職	氏 名	生 年 月 日

備考 合格證種別欄ハ普通自動車特殊自動車ノ種別ニ從ヒ「普通」「特殊」ト記入シ特殊ノ場合ニ於テハ更ニ其ノ種別ヲ併記ス

1426

第四條第一號中「滿十八年以上」ヲ「滿十五年以上」ニ改ム
 第五條乃至第七條中「要港部司令官」ヲ「警備府司令長官」ニ改ム

第九條中「要港部」ヲ「警備府」ニ改ム
 第八條中「要港部司令官」ヲ「警備府司令長官」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

掌内火兵(自動車班專修)及掌工兵(施設機械專修)ニ對シテハ前條ニ規定スル試驗ヲ行フコトナク當該證明書ヲ交付スルヲ例トス此ノ場合要スレバ海軍工機學校長又ハ沼津海軍工機學校長ヨリ技術證明書ヲ交付スルコトヲ得

(參照) 諸例別卷三、八五〇ノ一頁

內令第一一三號

對潜水艦戰術草案別冊ノ通定メ之ヲ試行ス
 別冊ハ海軍文庫ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十九年十月一日

海軍大臣

內令第一一四號

昭和十八年內令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月一日

海軍大臣

紀伊防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第八日東丸(吳)、第九日東丸(吳)」及「津丸(吳)、高津丸(吳)、第二高津丸(吳)」ヲ削リ特

設掃海艇ノ欄ニ「第二鮮友丸(吳)、第三鮮友丸(吳)、第三高島丸(吳)、第三江口丸(吳)、楠丸(吳)、阿津丸(吳)」ヲ加フ
 第三南遣艦隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「宮古丸(舞)、若竹丸(舞)」ヲ削ル
 第十二特別根據地隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第十根	宮古丸(舞)
第五據	若竹丸(舞)
特別地	
別隊	

(內令提要卷三、四八ノ二九頁參照)

官房經第九三五號

昭和十五年官房第五三二三號中左ノ通改正ス

昭和十九年十月三日

海軍大臣

第一項第一號(一)及(二)中「在勤加俸」ノ下ニ「及臨時家族手當」ヲ加フ
 別表ヲ別表ノ如ク改ム

附則

本令ハ昭和十九年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(別表添)

(參照) 海軍會計法規類集二卷 八〇八ノ二七ノ五頁

秘海軍公報 第四八一八號 昭和十九年十月五日

一三三五

官房教第七九號

學術獎勵賞授與特例ニ關シ左ノ定ム

昭和十九年十月四日

海軍大臣

學術獎勵賞授與内規別表記載職名以外ニ於テ各種練習生(下士官候補者ニシテ特技章ヲ付與セラルルモノヲ含ム)ヲ養成スル場合其ノ卒業成績優等者ニハ學術獎勵賞授與内規ヲ準用シ賞狀ヲ授與ス

前項ノ賞狀ハ其ノ教育ヲ掌ル所轄長之ヲ授與スルモノトス

(參照) 諸例則卷三、八七八頁ノ五及八七八頁ノ一三

○通牒

官房軍第一一六三號

昭和十九年十月三日

海軍次官

關係各廳長殿

自動車操縱術技術證明書交付規則改正ニ關スル件申進

今般達第三三六號首題規則ノ一部改正ニ於テ掌内火兵(自動車班專修)及掌工兵(施設機械專修)ハ自動車操縱ニ關シ十分ナル技術ヲ有スルモノト認メラレ同規則第七條ニ規定スル試験ヲ行フコトナク技術證明書ヲ交付スルヲ例トスルコトニ定メラレ候處右主旨ニ鑑ミ此等特修兵ノ教育指導並ニ配置ニ關シテハ今

後一層留意シ之方自動車操縱技術ノ維持向上ヲ期シ得ル様可然取計相成度

海人三第二號ノ一〇五

昭和十九年十月三日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

臨時考課表調製ニ關スル件申進

左記ニ依リ飛行豫科練習生出身ノ特務士官ニ對スル臨時考課表ヲ調製シ直接海軍大臣ニ進達ノコトニ定メラレ候

記

調製範圍	進達期限	記	事
海軍中尉ニシテ昭和十八年八月一日以前現官ニ進級シタルモノ	昭和十九年十月三十一日	一、考課表ノ様式ハ士官ニ對スルモノニ依ル	二、考課表進達ノモノニ付テハ大尉ニ進級ヲ俟テ士官タル内意ニ付所見ヲ除シタルモノトシテ見所見ヲ記載スルモノトス

經給第一八四號

昭和十九年十月四日

海軍省經理局

關係各部御中

家族移轉料支給上ノ勤務地ニ關スル件通牒

左記各部ニ勤務スル海軍軍人軍屬ニ付テハ各頭書ノ地ヲ家族移

轉料支給上ノ勤務地トシテ認許セラレ候

記

宮城縣女川町 女川 防備隊
 埼玉縣大和田町 大和田 通信隊
 三重縣鳥羽町 伊勢 防備隊
 下關市 下關 防備隊
 佐伯市 吳防備戰隊司令部
 長崎縣川棚町 臨時魚雷艇訓練所

○雜款

○飛行術練習生(射擊專修)期別付與ノ件通知
 高雄海軍航空隊ニ於テ卒業ノ第一期乙特出身ノモノニテ第一期飛行術練習生(射擊專修)トアルハ第三十四期飛行術練習生射擊專修ト定メラレ候條左記ニ依リ處理相成度

一 履歴表欄中左ノ要領ニ依リ記註相成度

年月日	履歴
一九一六、一一	練習聯空總隊機密第八〇號ノ六九ニ依リ第三十四期飛行術練習生(射擊專修)課程卒業者トナル

二 履歴表ノ特科及特技章欄ノ「飛行術章(射擊)」トアルヲ「飛行術章(射擊)」ニ、配置又ハ履歴欄ノ「飛行術練習生(特)」トアルヲ「飛行術練習生(射擊)」ニ訂正ヲ得度

三 考課調査表中「飛練(特)」トアルヲ「飛練(射擊)」ニ訂正ヲ得度
 (第二高雄海軍航空隊)

○履歴記註事項ニ關スル件

今般本校ハ横須賀第三警備隊ヲ、分校ハ同武山派遣隊ヲ兼ネシメラレタルニ付本年七月二十日以後本校及分校ノ定員、練習生(講習員ヲ含ム)及新兵タリシモノニシテ現ニ貴所轄勤務員ニ對シ該當者ヲ調査ノ上左ノ通記註相成度

本校校員	兼横須賀第三警備隊附ヲ命ズ	工機校
分校校員	兼横須賀第三警備隊武山派遣隊附ヲ命ズ	工機校分校

一 七月二十日以後本校及分校ニ入校セル者ニ對シテハ當校附ヲ命ジタル日ヲ以テ記註相成度

二 自今本校附及分校附又ハ練習生(講習員ヲ含ム)等ニ轉動(入校)ヲ命ズル際ハ同時ニ必ズ「兼横須賀第三警備隊附ヲ命ズ」又ハ兼横須賀第三警備隊武山派遣隊附ヲ命ズ」ト記註相成度

追テ (一) 在籍海軍人事部長ニ對シテハ所定ノ異動通知送付相成度

(二) 練習生及講習員中機關術(掌主機及掌權)及高等科内火術(内火班)ハ本校右以外ハ分校勤務ニ候
 (海軍工機學校)

○事務所撤去

呂號第五十五潜水艦艇裝具事務所ハ九月三十日之ヲ撤去セリ

○旅行順路

北陸線富山驛乘換富山港線大廣田驛下車大廣田驛ヨリ日本海造船所迄徒歩ニテ約五分

富山縣富山市西ノ宮七二日本海造船所内

(第三十七號海防艦艇裝員事務所)

○本日軍機秘海軍公報第二〇號(乙配付)發行セリ

配付先

各鎮守府、各警備府(除海南)、各海軍人事部、各地方海軍人事部

海軍經理部

海軍施設部

海軍需部

警備府軍法會議

通信隊

在勤海軍武官府

海軍運輸部

海軍刑務所

海軍監督官事務所

在勤海軍武官府

海軍監督官事務所

大阪海軍運輸部神戸支部

海軍經理部名古屋支部

海軍施設部名古屋支部

海軍運輸部名古屋支部

在勤海軍武官府

海軍監督官事務所

名古屋

海軍監督官事務所

○本日海軍公報發行セズ

舞鶴海軍運輸部伏木支部
富山海軍監督官事務所
滿洲國在勤帝國大使館附武官
新京日本海軍武官府
船船警戒部大阪支部
船船警戒部神戸支部
第二海軍療品廠



海軍公報 第四八一九號

昭和十九年十月六日(金)
海軍大臣官房

○令 達

達第三三八號

艦營需品定額表中左ノ通改正ス

昭和十九年十月五日

海軍大臣

主計長主管

區別	類別	番號	供給區分	品名	數稱	摘要	記事
例除需品	四一〇			窓掛丙	枚		
改正消耗品	十二二〇			軍用薪	把	代用品適宜	摘要改正

達第三三九號

艦營需品經理規程中左ノ通改正ス

昭和十九年十月五日

海軍大臣

別表第一號其ノ二豫算外直買需品名表中主計長主管ノ部中「軍用薪」ヲ「軍用薪代用品」ニ改ム

別表第二號豫算内直買需品名表中機關長主管ノ部中「木炭」ヲ削リ主計長主管ノ部中「軍用薪」ヲ「軍用薪代用品」ニ改ム

同號備考中「木炭」ヲ削ル

秘海軍公報 第四八一九號 昭和十九年十月六日

官房經機密第一五九二號

本年九月二十一日現在ノ工(鑛)員(見習工員及見習鑛員ヲ除ク)ニ付本年十月ニ於テ左記ニ依リ臨時賞與ヲ支給スベシ

昭和十九年十月五日

海軍大臣

記

一 賞與額給料 二十日分以内

二 廳長ハ海軍省經理局長ノ定ムル所ニ依リ各人ニ對シ賞與ノ減額支給ヲ爲スコトヲ得

○通 牒

官房經機密第一六〇〇號

昭和十九年十月五日

海軍次官

各所屬長官殿

豫算運用ニ關スル件申進

戰局ノ要請ニ基ク臨時軍事費豫算ノ必然的膨脹ニ伴ヒ近時動モスレバ部内ニ於テ豫算ノ使用ニツキ慎重ヲ缺ク向アルヤニ見受ケララル處斯クテハ世上一般ニ於ケル資金輕視ノ風潮トモ關聯シ惡性「インフレーション」傾向ヲ助長スルノ虞ナシトセズ固

一三三九

1431

家財政資金ノ一大部分ヲ支出スル海軍トシテハ此ノ際自ラ戒メ
職備實行上資材勞務ト資金トノ吻合ヲ期スルト共ニ不急不要ノ
支出ハ嚴ニ之ヲ抑制スルノ要切ナルモノアリト認メラルルニ付
關係各部ニ於テ更ニ資金ノ效率發揮ニ努メ豫算運用上遺憾ナキ
ヲ期スル如ク指導相成度

官房機密第一三四號ノ一五

昭和十九年十月一日

海軍省副官

關係各廳長殿

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セラルルモノヲ除キ別冊暗號圖書
現狀表第三七號ニ依リ處理相成度
(別冊ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス)

教育機密第三三二號

昭和十九年九月二十六日

海軍省教育局長
海軍省人事局長

各鎮守府參謀長
各警備府參謀長
海軍練習聯合航空總隊參謀長殿

特別志願兵及徵兵(半島及本島出身)ノ新兵
教育等ニ關スル件申進

首題ノ件當分ノ間左記ニ依リ實施ノコトニ定メラレ候

教育實施要領

兵種別	場所	期	場	所	採用法	記
新兵教育	所屬營	六月	内地ノ關係	科ニ依リ一部	現地部隊	海軍經理學校
水兵	機關兵	六月	所屬營	兵團又ハ特定ノ海兵	海軍練習航空隊	海軍練習航空隊
整備兵	工作兵	四月	航空練習隊	航空練習隊	航空練習隊	航空練習隊
衛生兵	衛生兵	四月	戸塚海軍病院	戸塚海軍病院	戸塚海軍病院	戸塚海軍病院

備考

- (一) 本教育ハ第四期特別志願兵(昭和十九年十一月一日入團)ヨリ之ヲ適用ス
- (二) 第二期及第三期特別志願兵ニ對スル練習生採用ハ新兵教育終了後本要領ニ準ジ之ヲ實施シ第一期特別志願兵ニ對スル練習生採用ハ第二期特別志願兵ト同時ニ之ヲ行フ練習生採用種別

兵種	練習生	種別
水兵	普砲陸戰	砲上對空機高角銃
整備兵	普飛機	信飛機雷
機關兵	普內火(自動車)	
工作兵	普工	
衛生兵	普看	
主計兵	普經	

備考

丙種飛行豫科練習生ノ採用ニ關シテハ別ニ定ム

經給機密第一五三號

昭和十九年十月四日

海軍省經理局長

各關係廳長殿

獎勵加給ニ關スル件通牒

當分ノ開奄美大島以南ノ琉球諸島ニ在ル海軍ノ各部ニ勤務(派遣ヲ含ム)ノ工員ニ對スル獎勵加給ハ昭和十九年經給機密第一二號ノ規定ニ拘ラス平均五割迄ヲ支給シ得ルコトト了知相成度

經給機密第一五四號

昭和十九年十月五日

海軍省經理局長

秘海軍公報 第四八一九號

昭和十九年十月六日

一三四一

關係各廳長殿

工員賞與支給ニ關スル件通牒

本年官房經機密第一五九二號ニ依ル首題ノ件ハ昭和十八年經給機密第一一六號ノ規定ニ拘ラス左記ニ依リ支給スル義ト了知相成度

記

一 賞與支給額ハ左ニ依ルモノトス

六月二十日以前採用ノ者 二十日分以内

七月二十日以前採用ノ者 十五日分以内

八月二十日以前採用ノ者 十日分以内

二 本賞與期間内ニ於テ刑罰ヲ受ケタル者ニハ本賞與ヲ支給セズ但シ職務上ノ過失ニ因リ八日以内ノ禁足ニ處セラレタル者ニ付テハ其ノ情狀及平素ノ勤務ヲ斟酌シテ前號ニ依ル賞與支給額ヨリ其ノ七割以内ヲ減額シ賞與ヲ支給スルコトヲ得

三 本賞與ハ缺勤日數並ニ平素ノ勤務狀況ニ依リ適宜減額スルコトヲ得但シ情狀重キモノニ對シテハ本賞與ヲ支給セズ

經機密第三號ノ七二

昭和十九年十月五日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

各契約擔任官殿

昭和十九年度豫算使用ニ關スル件通牒

今般官房經機密第一六〇〇號ヲ以テ海軍次官ヨリ豫算運用ニ關

シ各所屬長官宛申進有之候處昭和十九年度豫算ノ實行ハ今日迄ノ令示實績ニ徴スレバ豫想外ニ多額ニ上ル狀況ナルヲ以テ豫算ノ使用ニ關シテハ此ノ際一層慎重ヲ要スルモノト認メラレ候ニ付關係各部充分連絡ノ上概ネ左記ニ依リ豫算ノ節用、資金ノ效率發揮ニツキ更ニ格段ノ配慮相成度

記

一 物品購入費加工費等ノ前金拂概算ハ生産力増強上必要ナル限度ニ於テ充分之ヲ活用スルコトトシ苟モ舊來ノ惰性ニ依リ劃一放漫ニ流レ或ハ業者ノ打算的要望ニ追從スル方如キコトヲ絶無ナラシムルコト

二 軍需手形ニ就テハ海軍各部ニ於テハ一般ニ無關心ナル同多ク今日迄ノ實績期待ノ如クナラザルニ付今後ハ前金拂概算拂下併用スル如ク一段ノ工夫ヲ加ヘ以テ之方利用擴大ニ努ムルコト

三 例年十二月ニ於テハ前金拂及概算拂ノ支拂高甚シク増嵩ス

ル傾向アリシモ本年度ハ豫算ノ都合モアリ努メテ之方増嵩ヲ抑制スルコト
 四 臨時軍費成立豫算ハ昭和二十年一月末迄分ヲ日途トセルモノニ付各部ノ令示要求ハ短期間分ニ區分シ支出官及前渡官更ノ手持額ヲ少カラシムルト共ニ二月一日以降持越額ハ極力之ヲ減縮スルコト(二月以降所要額ニ就テハ次期成立豫算中ヨリ早日ニ令示手續ノコトニ當局ニ於テ考慮ス)

○ 雜 款

○ 正 誤

九月十一日附秘海軍公報(第四七九六號)一三二〇頁下段一行目「防空電燈覆」ノ數稱欄中「同」ハ「個」ノ誤、一三二二頁上段二行目「陸戰椅子乙」ノ記事欄中「摘要削除」ハ衍、同一三二三頁上段五行目「玉揚策」ノ記事欄中「六」ハ「甲」同六行目「玉揚策小」ハ「玉揚策乙」ノ誤

合同海軍葬儀執行

期 日 及 時 刻	大東亞戰爭戰歿者	喪 葬 管 理 者	場 所	記 事
十月二十六日 一〇〇〇	故海軍少佐矢尾嘉一外諸勇士	金澤地方海軍人事部長	東本願寺別院	佛式
十月二十八日 同	故海軍大尉大堀實外諸勇士	新潟地方海軍人事部長	新潟市公會堂	同
十月三十一日 〇九三〇	故海軍大佐大槻俊一外諸勇士	舞鶴海軍人事部長	舞鶴海兵團	同

6 OCT 44

秘

海軍公報 號外

○懲罰

懲罰言渡書

秘海軍公報 號外

昭和十九年十月六日(金)
海軍大臣官房

1435

秘
海
軍
公
報
號
外

1436

秘
海
軍
公
報
號
外

三

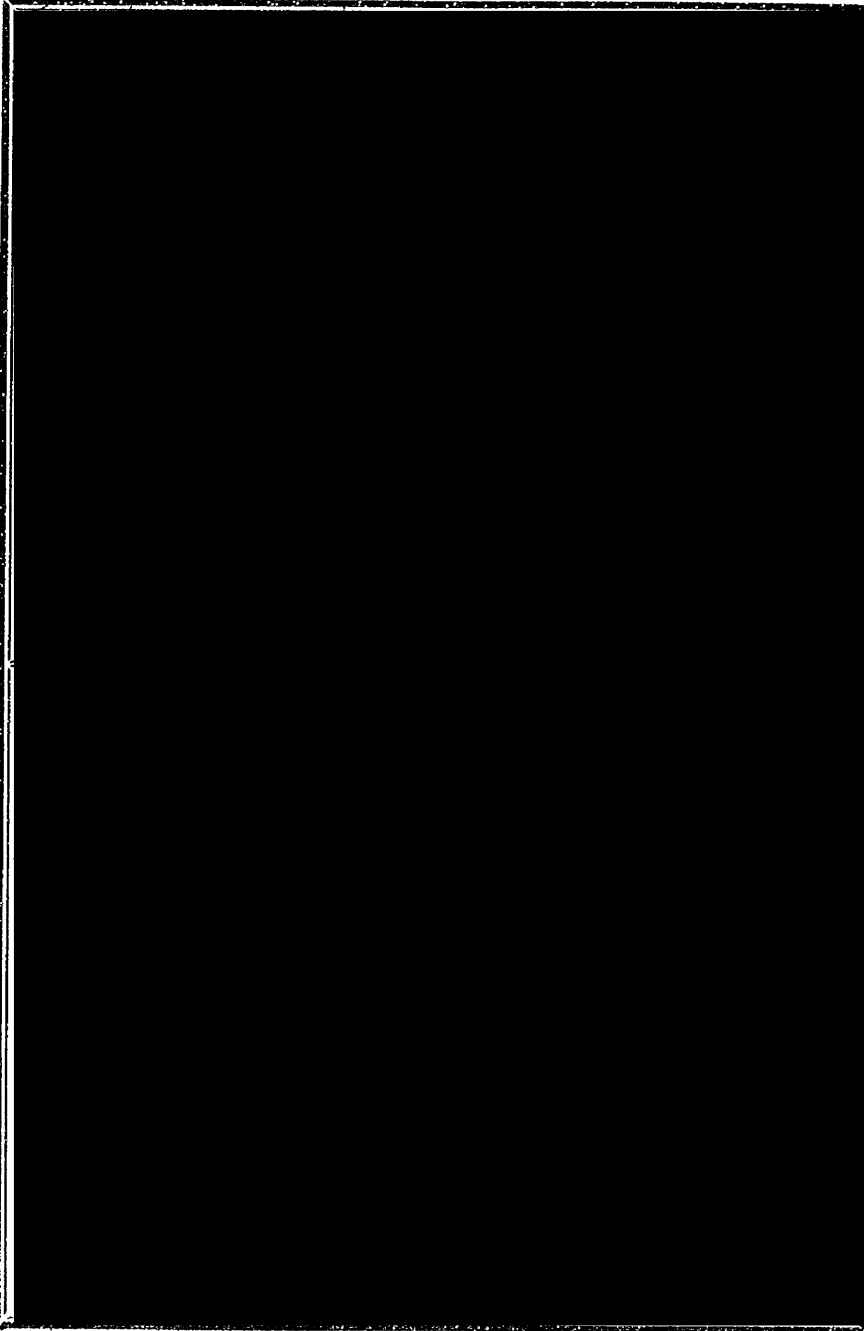
1437

秘
海
軍
公
報
號
外

四

1438

秘海軍公報 號外



五

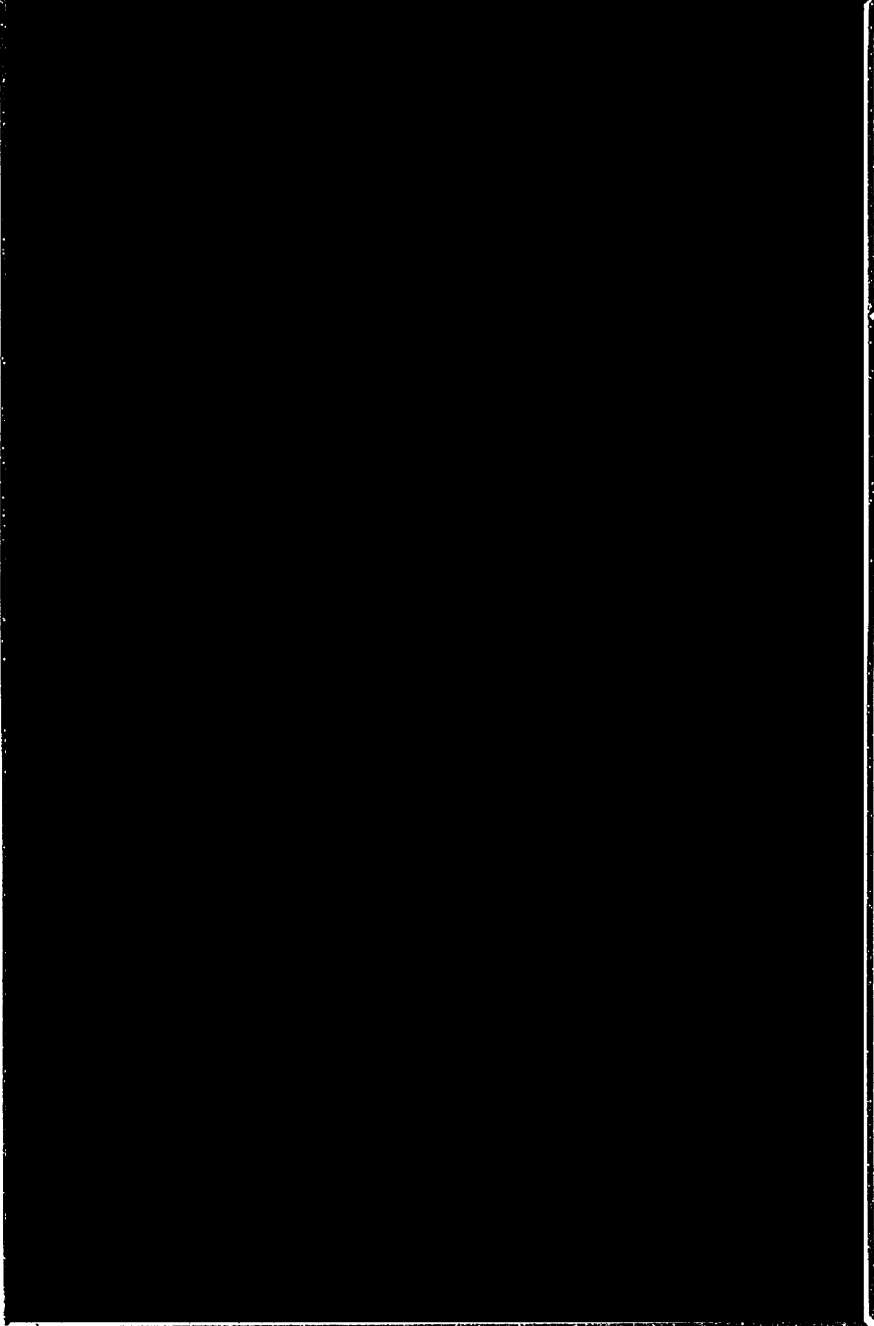
1439

秘
海
軍
公
報
號
外

六

1440

秘
海
軍
公
報
號
外



七

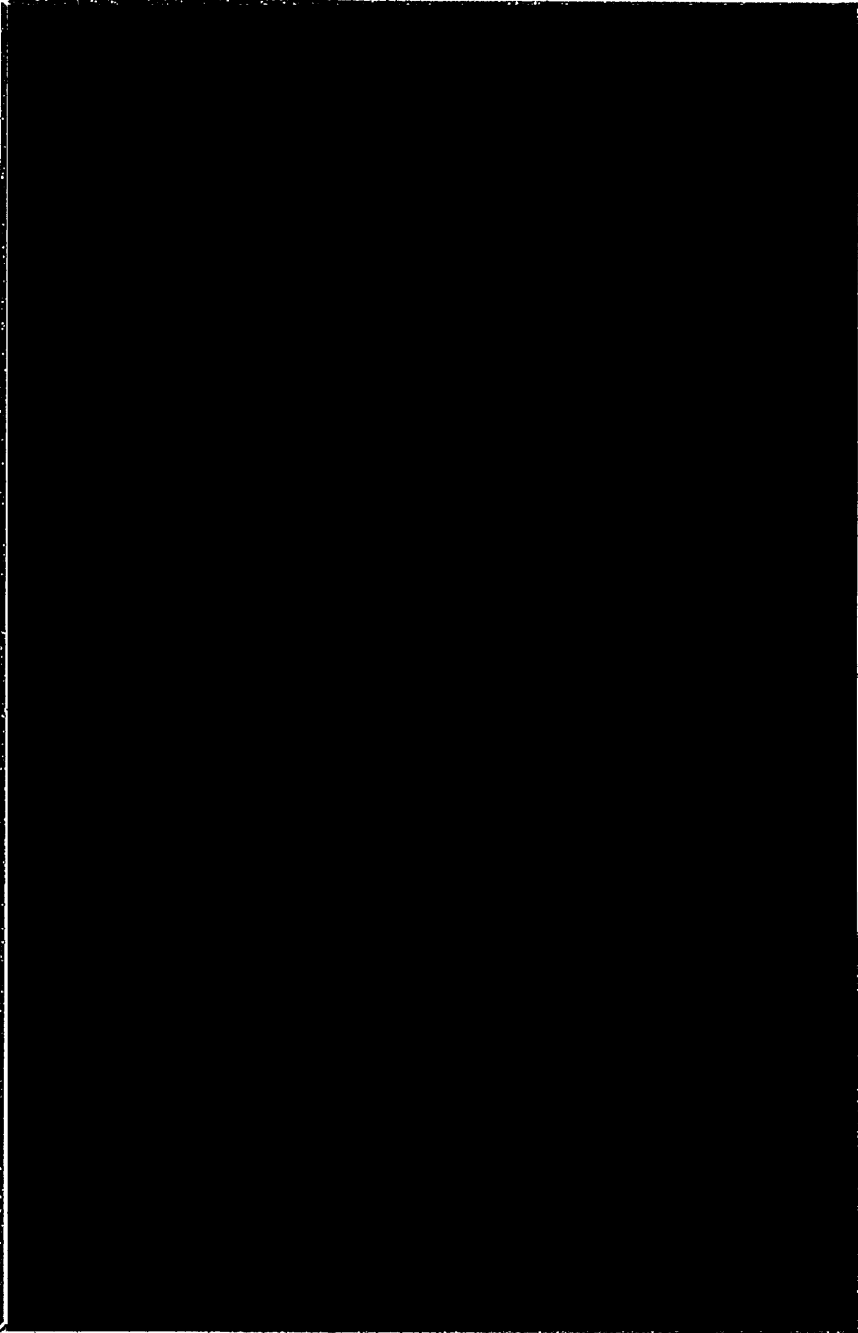
1441

秘海軍公報 號外

八

1442

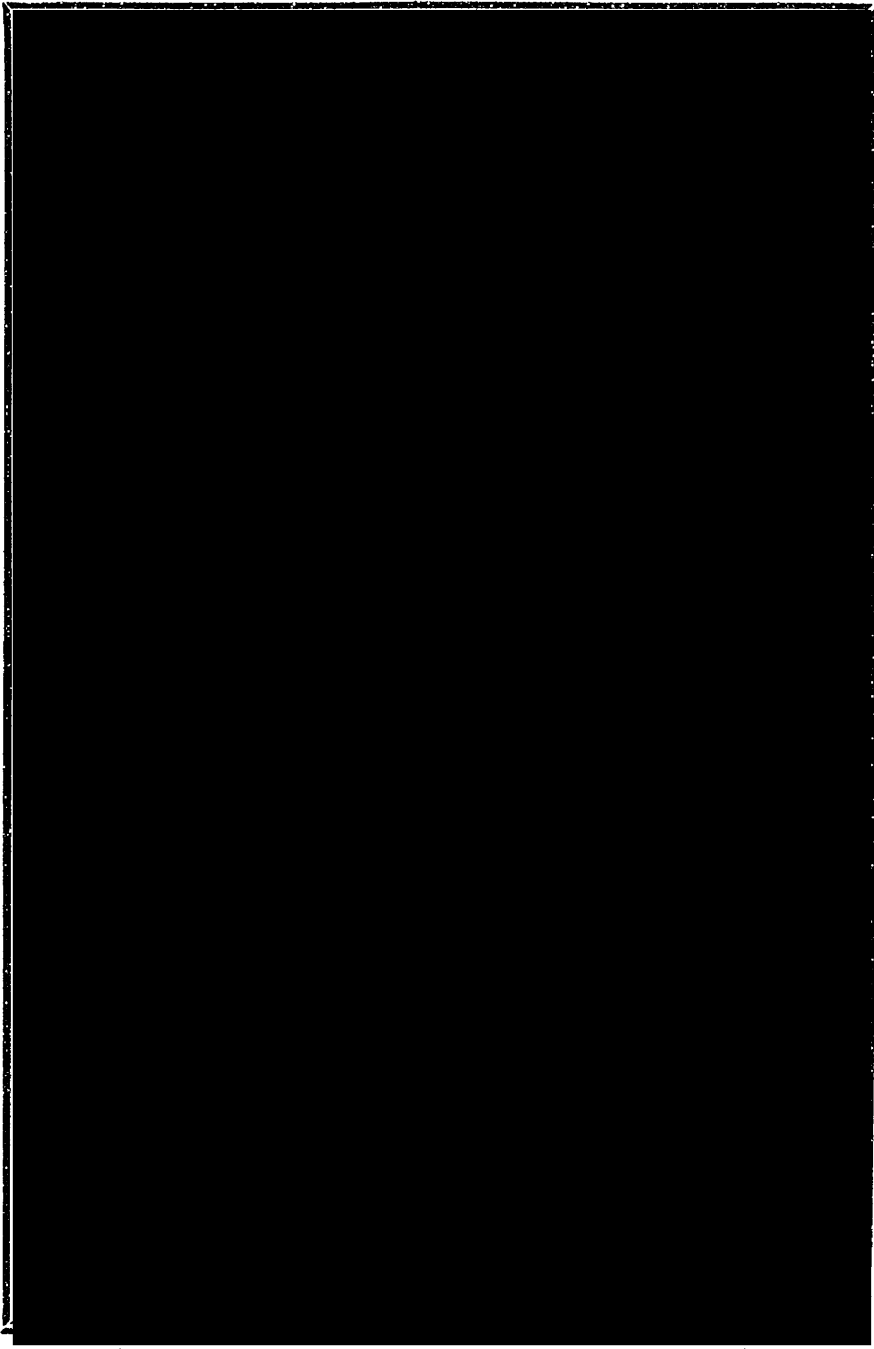
秘海軍公報 號外



九

1443

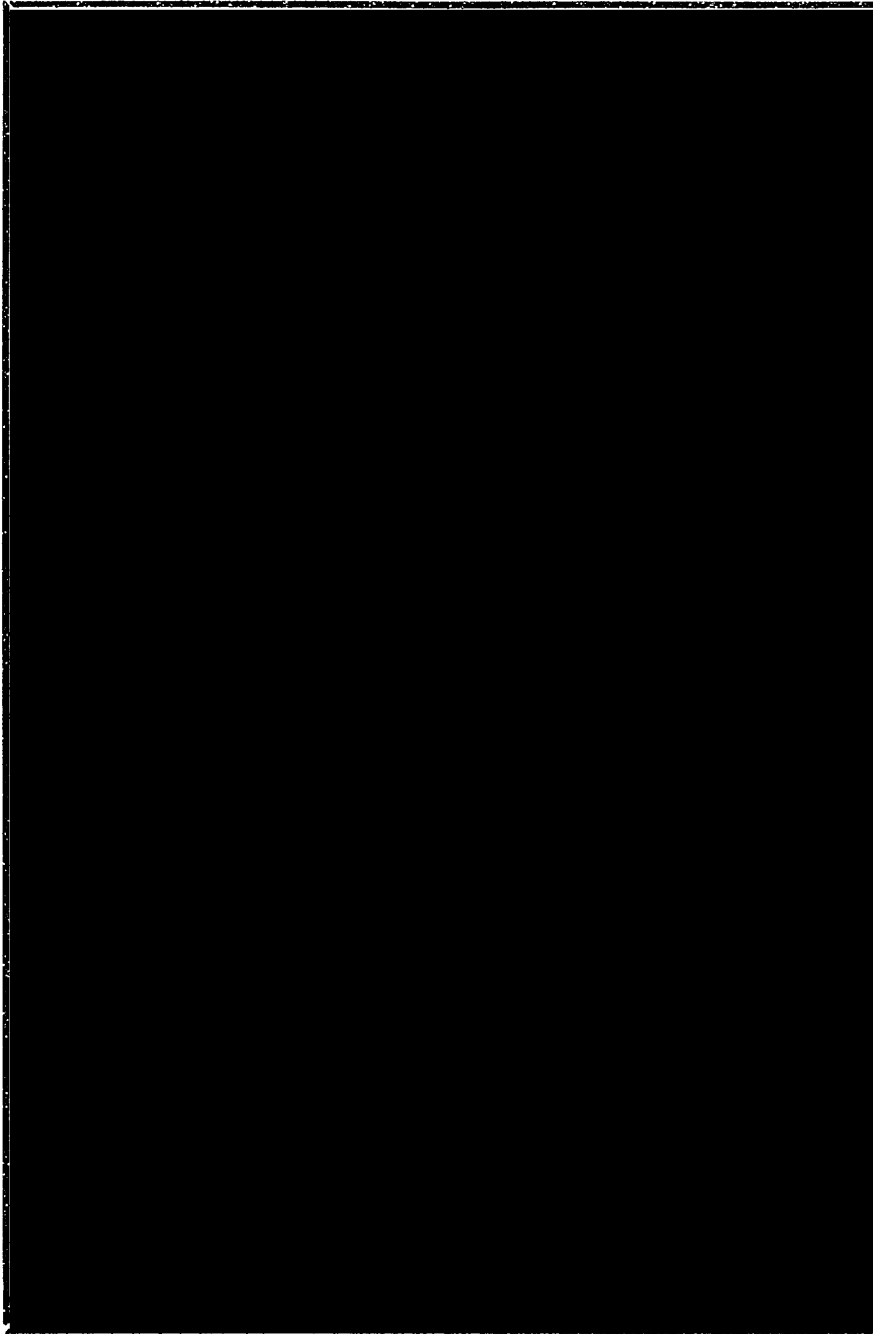
秘
海
軍
公
報
號
外



1444

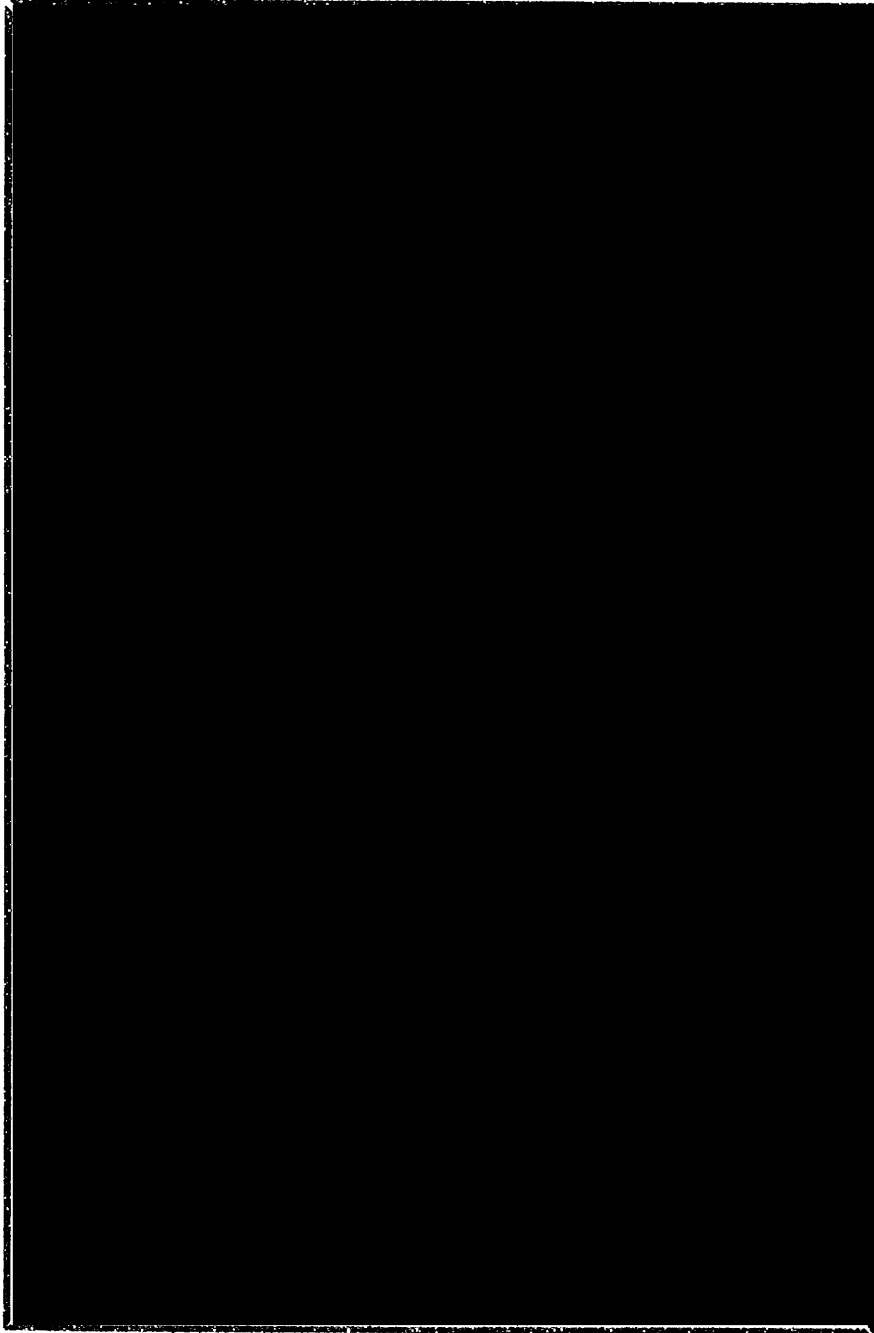
一〇

秘
海
軍
公
報
號
外



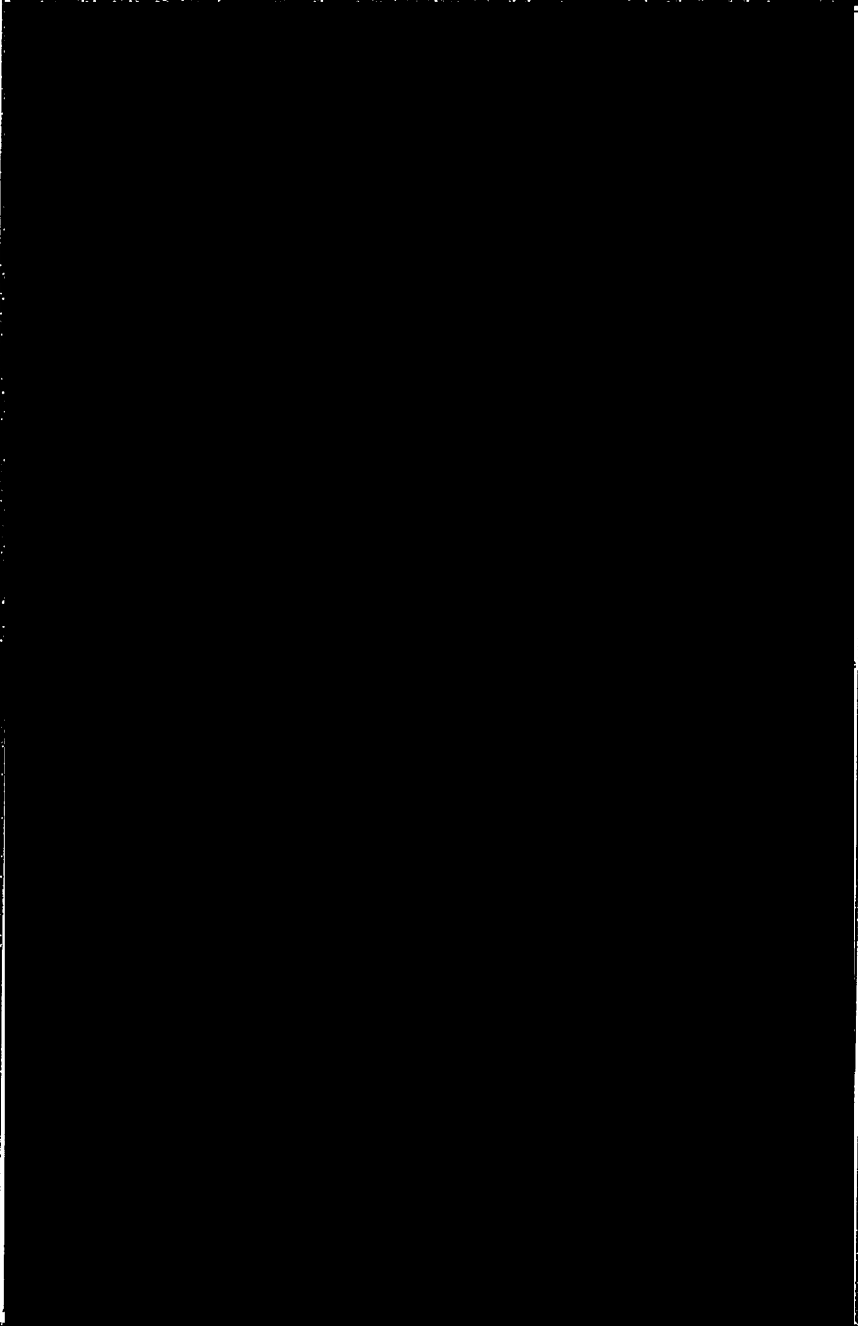
1445

秘
海
軍
公
報
號
外



1446

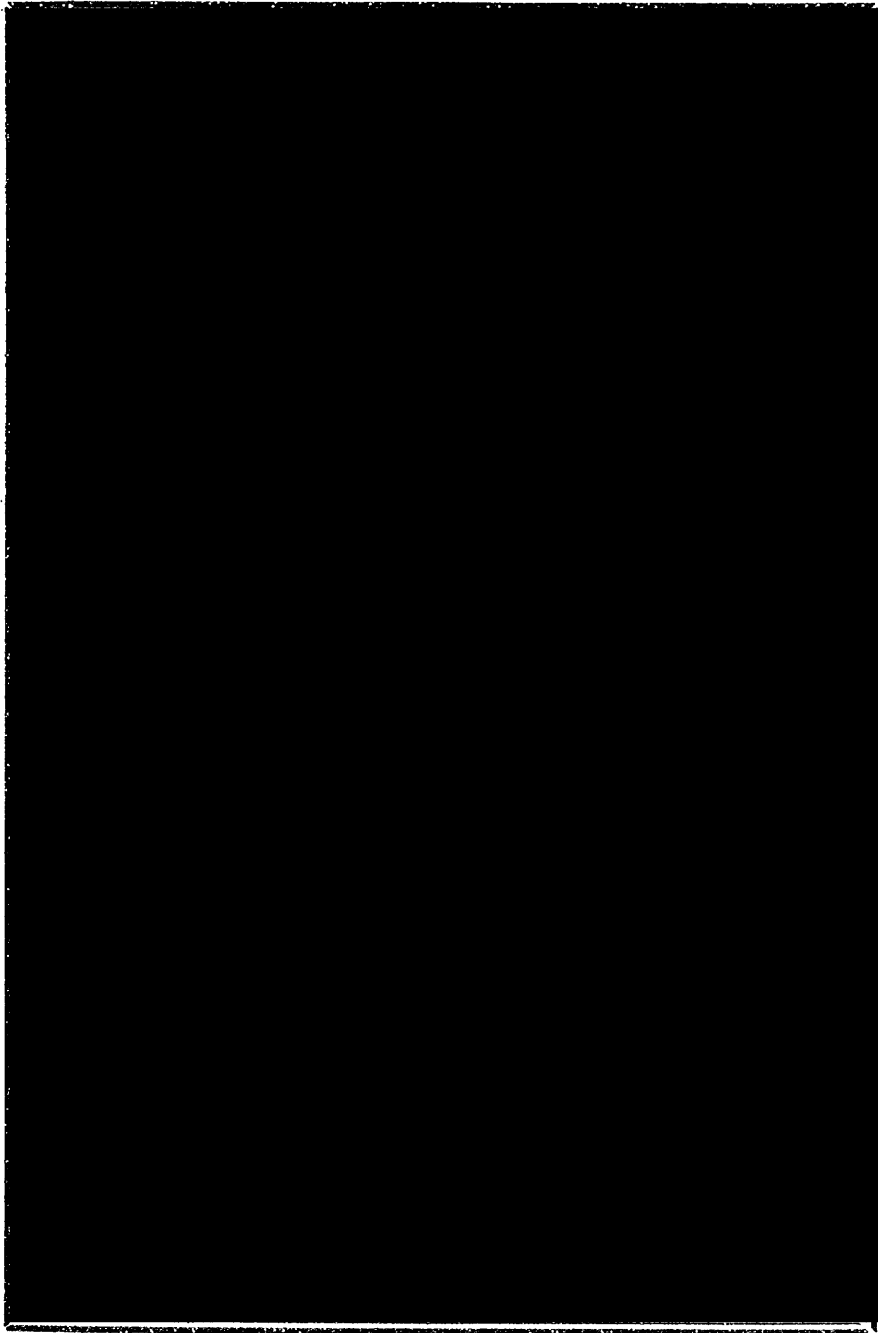
秘海軍公報
號外



1447

秘
海
軍
公
報

號
外



一
四

1448

秘
海
軍
公
報
號
外

五

1449

秘
海
軍
公
海
號
外

二
六

1450

秘海軍公報 號外

七

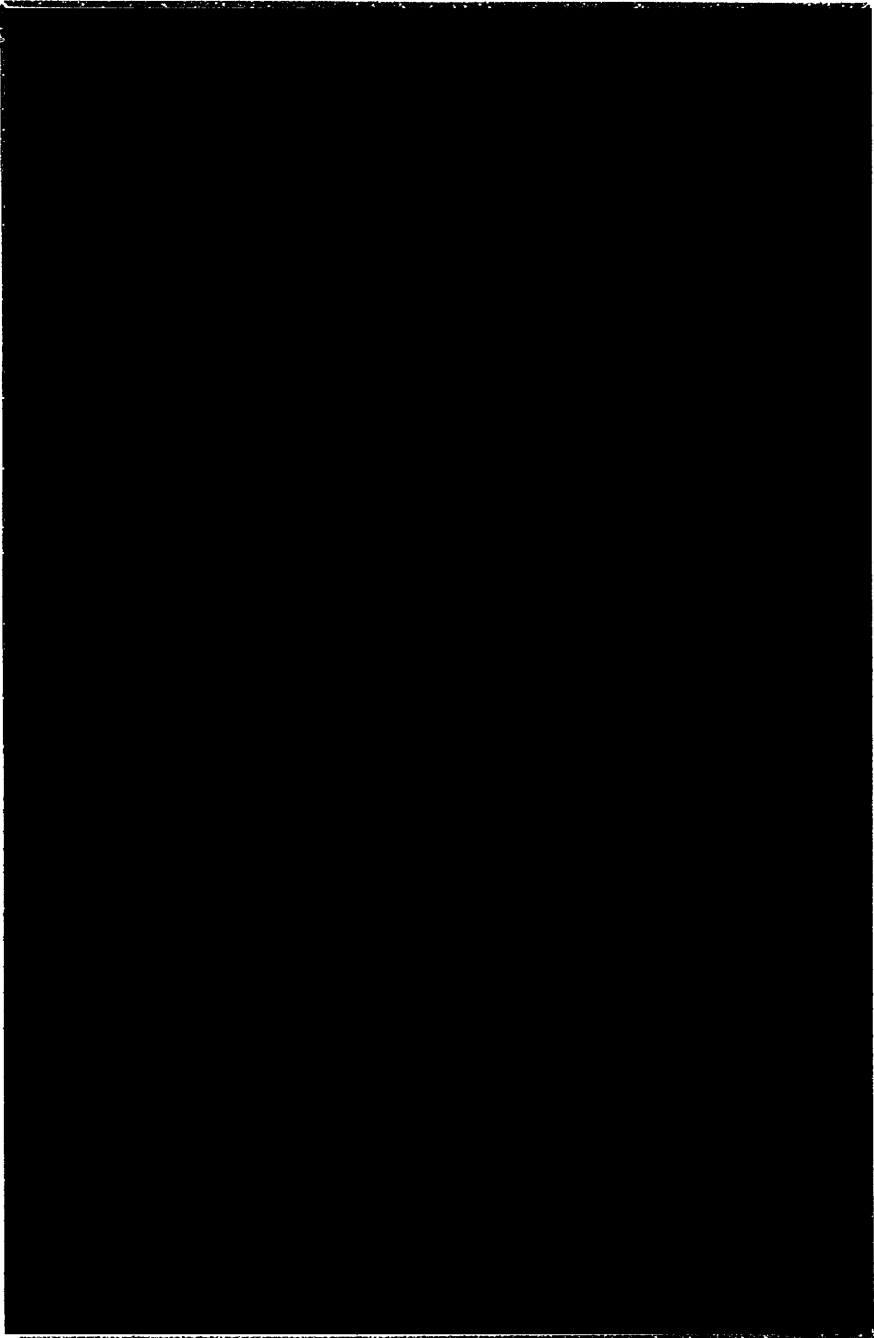
1451

秘
海
軍
公
報

號
外

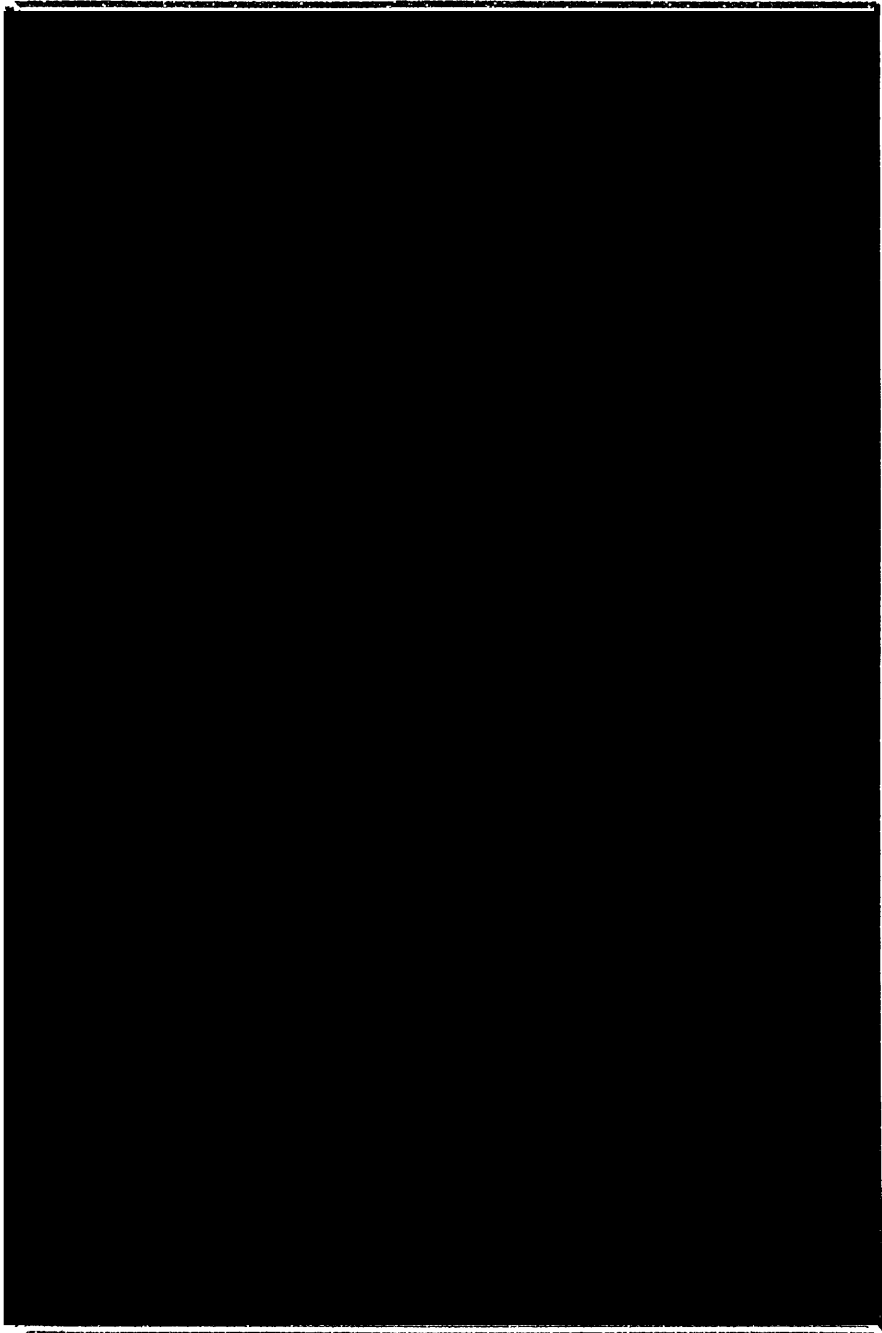
1452

秘海軍公報
號外



1453

秘
海
軍
公
報
號
外



二
〇

1454

秘
海
軍
公
報

號
外

1455